

## 事業実施報告書

実施日時：令和7年11月1日（土）

### ●みんなで遊ぼう！ 水辺空間を活かした歴史探訪

和歌川は、かつて紀の川の本流が蛇行して和歌浦湾に注いでいた頃の名残であり、本来は北から南へ水が流れていました。しかし、和歌山市内では高低差が非常に少なかったため、潮の満ち引きによって流れの方向が変わるほど緩やかな流れであり、この水流の少なさが水質悪化をもたらす大きな要因ともなっていました。戦後の産業の進展や家庭からの排水で、昭和40年代には水質が全国1、2位と言われるまで悪化しました。

このため、昭和52年に和歌山市塩屋地区に堰（和歌川排水機場）が設けられて、これ以降は和歌浦湾側の水をポンプで汲み上げて北側の市堀川へ流し込むようにして人工的に水流を作り出しています。つまり、和歌川の流れは昭和52年を境に「南向き」から「北向き」へと逆転しています。近年では、内川をきれいにしようとする市民活動の成果もあり、浄化対策や下水道など国・県・市による対策に繋がった結果、内川はかなりきれいになり、京橋付近の市堀川（いちほりがわ）では、親水公園が設置されるとともに、夜市なども開催され、川に親しもうという動きが活発になっています。また、和歌山商工会議所でも和歌川河口に位置する、和歌の浦干潟のラムサール条約登録に向けた取組をおこなっています。

今回は、和歌山ロータリークラブ主催の市堀川スタディークルーズ（船上視察）とタイアップし、雑賀橋付近から和歌川を下り、和歌川排水機場間を往復することによって、この問題の背景と現状を理解し、和歌川の浚渫時に緩衝緑地帯として造成され整備された「和歌川河川公園」の成り立ちや管理方法について県民の方々に理解していただく機会を設けました。まちの歴史探索と絡めて、「かたりべ」の話に耳を傾けながら、水辺から見る珍しい景色を見ることによって、新たな知識や地元愛が生まれ、当公園の水辺空間の魅力を高めることができました。

